

第12回大阪消防清風会総会 盛大に催される

写真説明
上 総会での議案
審議
下 懇談会で万才
三唱する会員

さわやかな秋となり、恒例の大阪消防清風会総会が十月九日午後三時から、都島区網島町の太閤園において会員二四四名が参加して行なわれた。

定刻の三時に来賓の、鴻池大阪市連合消防協力会長、府下の各消防長および大阪市消防局から深澤局長以下各幹部が列席するなかで青木常務理事の司会により開会された。

総会に先立ち出席者全員が消防職員殉職者並びに他界された先輩同僚各位の御霊に対して一分間の黙とうを捧げた。

はじめに飯田会長から「清風会も発足以来会員数も年とともに増え事業内容も会員各位のご努力により、ますます充実しつつあることは誠に喜ばしいことであります。本年は大阪消防に三十年という記念すべき年にあたり、これにちなんで多彩な行事が催され、さらに十月四日からはコンベンツタ導入による新消防指令システムが運用を開始されるなど名実ともに近代科学消防に発展したことは私達にとつてもこの上もない喜びでありまして、今後の活躍を大いに期待するものであります。」とあいさつされ、続いて来賓を代表して鴻池大阪市連合消防協力会長から「会員の皆さんは本年にわたり都市防災に献身され今日の立派な大阪消防を築



第12回大阪消防清風会総会

かかれたご功勞に対し深甚の敬意を表するとともに、今後とも一層のご指導、ご協力をお願いいたします。」とのご祝辞をいただき議事に入った。

まず事務局から昭和五十二年度事業報告並びに歳入歳出決算報告(別表)があり、次に岩崎監事から監査報告が行われた。続いて昭和五十三年度事業計画案並びに歳入歳出予算案について事務局から説明(報告)があり満場一致で原案通り承認を得た。引き続き事務局から本年四月一日付で勇退された前消防局長の内山登氏を本会の顧問に委嘱したこと、報告があった。

最後に深澤消防局長から最近の大阪消防の概況および先輩各位の協力に対する謝意と、消防の使命達成のため全職員が一致団結して

災害のない明るい町づくりに努力するとの決意がのべられ、第一部総会は滞りなく終了した。

引き続き第二部の懇談会も第一部と同じく青木常務理事の司会で進められ先づ総談会に先立ち飯田会長のおあいさつのもと、来賓の石川助役から「永年におたかり消防職員として職務に精励された事について感謝いたしますとともに皆さんは今後ともお身体に十分気を付けて余生を送られまとの再会をたのしみにしております。」とのあいさつがあり続いて小川顧問の発声により乾杯の音頭がとられ懇談会に入った。

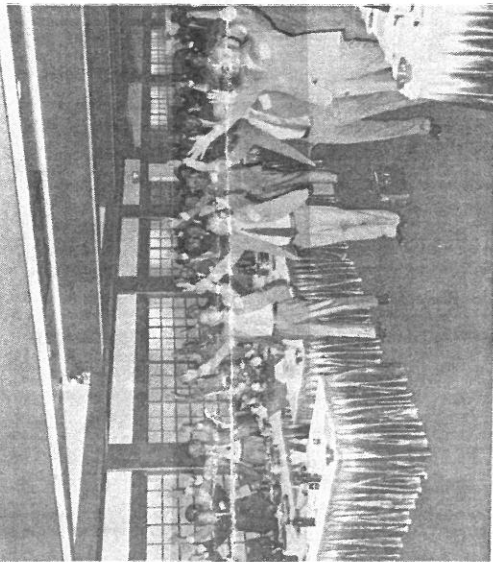
最後に八尾市消防本部の田守消防長の音頭で万才三唱を、高らかにを行い午後六時盛會裡に終了した。

大阪消防清風会報
(第 14 号)
発行
大阪消防清風会
大阪市西区新町1丁目26番3号
大阪市消防局内
TEL(06)531-0601(代)
発行人 飯田 神

昭和 52 年度 歳入 歳出 決算書

1. 歳入 金 1,464,400円
1. 歳出 金 1,224,460円
1. 差引残高 239,940円 (翌年度へ繰越)

款	項	目	算 算			増 △ 減	備考
			当初予算額	補正予算額	予算現額		
1 会費	1 会費		841,500	30,000	871,500	792,000	△ 79,500
	1 定額会費		841,500	30,000	871,500	792,000	△ 79,500
	2 終身会費		44,000		44,000	35,500	△ 8,500
	3 過年度会費		90,000		120,000	126,000	△ 6,000
	4 総会会費		700,000		7,500	500	△ 7,000
2 雑入金	1 雑入金		102,600		700,000	630,000	△ 70,000
	1 補助金		102,600		102,600	100,400	△ 2,200
	1 雑収入		102,600		102,600	100,400	△ 2,200
	1 補助金		100,000		100,000	100,000	0
	1 雑収入		100,000		100,000	100,000	0
	1 雑収入		74,658		74,658	140,758	66,100
	1 雑収入		60,000		60,000	40,000	△ 20,000
	2 雑取		14,658		14,658	100,758	86,100
5 繰越金	1 繰越金		331,242		331,242	331,242	0
	1 繰越金		331,242		331,242	331,242	0
	1 繰越金		331,242		331,242	331,242	0
歳入 合計			1,450,000	30,000	1,480,000	1,464,400	△ 15,600



叙勲に輝く人々

昭和五十三年度、春・秋の生年者叙勲で会員のうち次の方々が受章されましたので謹んでお喜びを申しあげます。



〇春の叙勲
勲四等旭日章
大塚弥三郎氏(七〇才)
生駒市東生駒二丁目
二〇七三



勲六等瑞宝章
黄岡和雄氏(六六才)
住之江区安立町四十一
一四二七



〇秋の叙勲
勲三等瑞宝章
小川銀氏(七〇才)
京都市北区小山西
大野町二五

款	項	目	算 算			流 増 △	予 算 現 額	支 出 済 額	不 用 額	備考
			当初予算額	補正予算額	合計					
1 会費	1 会費		755,000		755,000		755,000	574,640	180,360	
	1 会費		755,000		755,000		755,000	574,640	180,360	
	2 雑取		700,000		700,000		700,000	527,640	172,360	
2 事務費	1 需 要 費		220,000		220,000		220,000	193,130	26,870	
	1 消耗品費		55,000		55,000		55,000	38,280	16,720	
	2 備品費		10,000		10,000	8,000	5,000	18,000	0	
	3 印刷製本費		40,000		40,000	△ 8,000	32,000	20,280	11,720	
	1 通信費		165,000		165,000		165,000	154,850	10,150	
3 事業費	1 連絡費		390,000		390,000		390,000	351,690	38,310	
	1 会報印刷費		80,000		80,000		80,000	106,000	26,000	
	2 特別事業費		200,000		200,000	△ 35,690	164,310	70,000	94,310	
	3 雑費		200,000		200,000	△ 35,690	164,310	36,000	128,310	
	1 雑費		10,000		10,000		10,000	200,000	0	
	2 雑費		10,000		10,000		10,000	200,000	0	
	3 雑費		75,000		75,000	35,690	45,690	45,690	0	
4 積立金	1 積立金		30,000		30,000		105,000	105,000	0	
	1 積立金		30,000		30,000		105,000	105,000	0	
5 子 子 子	1 子 子 子		10,000		10,000		10,000	10,000	0	
	1 子 子 子		10,000		10,000		10,000	10,000	0	
	1 子 子 子		10,000		10,000		10,000	10,000	0	
歳出 合計			1,450,000	30,000	1,480,000		1,480,000	1,224,460	255,540	

終身会費積立金		(単位 円)	
項 目	金 額	昭和 52 年 3 月 末 現在	高 額
昭和 52 年 3 月 末 現在	483,615		
昭和 52 年 度 積 立 金	105,000		
預 金	7,485		
昭和 52 年 度 繰 越 金	100,400		
差引昭和 53 年 3 月 末 現在	495,700		

“火災・救急指令業務自動化システム完成”



大阪市消防局では、科学消防推進の一環として、火災、救急指令業務にコンピュータを導入して大幅な効率化を図ることとし、昭和五十一年から三年計画で建設工事を進めてきました。が、自治体消防発足三十周年にあたる本年十月、いよいよ完成し、四日から運用を開始しております。

この事業の目的は、年々ますます複雑多様化する傾向にある大都市災害から、市民の生命と財産を守り、被害を最小限にとどめるため、消防隊、救急隊に対する出場指令を迅速的確に行なうとともに、出場した隊に対して活動支援情報を提供し、これにより持てる力をフルに発揮せしめることにあります。

このシステムのもつ主な機能は次のとおりです。

一、通報受付処理
一一九番などにより、火災、救急の通報がなされると、消防局の指令台がこれを受け、コンピュータで処理が開始されます。

二、通報による指示
通報が一一九番によりなされた場合は、通報に使用している電話の属する電話局の管理区域内の町名が指令台上のディスプレイ画面

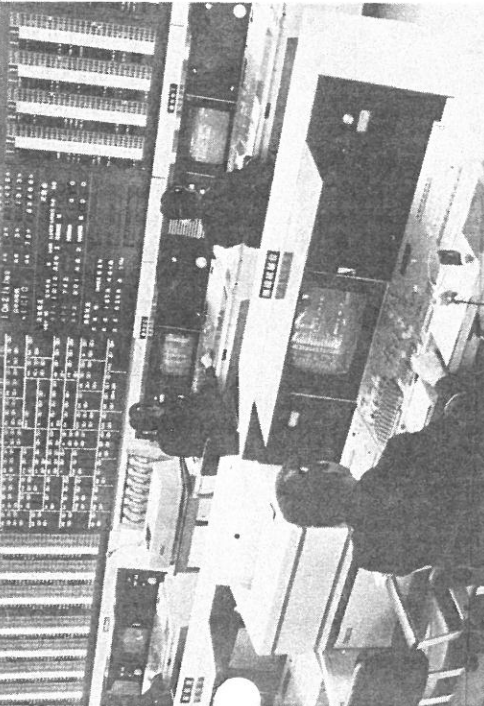
に表示されるとともにマイククロフィルムに収められた附近の地図が投影されます。

二、出場隊編成
通報の内容により、表示された町名の指定、投影された地図上の座標指定、または重要建物等の場合は建物名の直接入力、等によって災害点がコンピュータに入力され、これによりその災害に最適の出場隊が自動的に編成されます。

三、出場指令
編成された隊の所属する消防署または出張所に対してベルを鳴らし、同時に出場指令書をプリントします。指令書には災害地点などのほか、必要に応じて附近の水利の状況、危険物の情報、必要資器材の情報などもプリントされます。

四、支援情報の提供
大阪市内の重要対象物に関して、消防活動上必要となる情報をコンピュータに記憶させておき、必要に応じて随時これを指令台内の画面に写し出して、作戦や現場への指示に活用できるようにしています。

また、救急指定病院その他の医療機関の患者受入状況を記憶しておき、救急隊が的確な患者搬送を行なえるよう必要



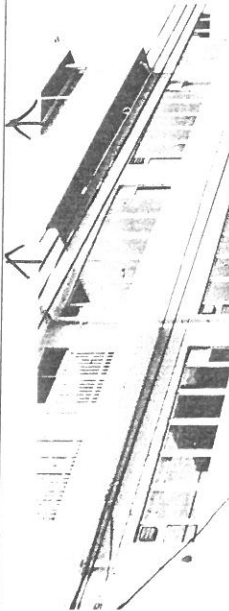
新装なった東消防

東消防署は昭和四十八年十月四日から庁舎改築のため東区和泉町一丁目四十六番地の仮庁舎（もと南大江小学校）に移転してまいりましたが昭和五十三年三月二十四日もの地に、大阪市住宅供給公社が住宅、施設併存建物（十四階建）を建設し、一階から三階部分を消防署庁舎として取得し事務を開始いたしました。

なお東消防署の所在地および建物概要は次のとおりです。

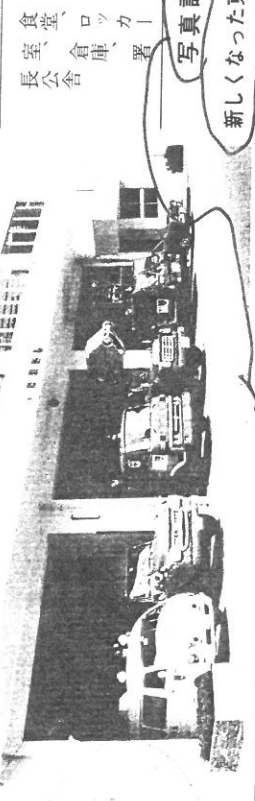
一、所在地 大阪市東区内本町二丁目二十六番地
二、構造様式 鉄骨鉄筋コンクリート造十四階建
三、消防署専有面積一、二二九〇、二二〇平方メートル
三、用途
一階 車庫、器材庫、救急待機室、工作室、電気室、機械室
二階 事務室、署長室

待機室、書庫
接室
室内訓練場兼
会議室、資料



写真説明
上 竣工式においてメッセージをのべられる大島市長
下 新装なった指令室

紹介



写真説明
新しくなった東消防署庁舎

改築出張所の紹介

昭和五十三年年度予算で改築された出張所（工事中を含む）の概要は次のとおりです。これにより、市内の消防署、出張所の木造庁舎はなくなりましました。

一、鶴見消防署茨田出張所
（S3・11・8竣工）
〇所在地 大阪市鶴見区茨田浜町一五一五
〇構造様式 鉄筋コンクリート造二階建
延二二四、一五平方メートル

二、城東消防署中浜出張所
（S3・11・8竣工）
〇所在地 大阪市城東区東中浜二丁目一一一九
〇構造様式 鉄筋コンクリート造二階建
延二二四、一五平方メートル

三、平野消防署長吉出張所
（S3・12・8竣工）
〇所在地 大阪市平野区長吉長原二丁目一ノ四
〇構造様式 鉄筋コンクリート造二階建
延二二四、一五平方メートル

四、旭消防署新森出張所
（S3・12・21竣工予定）
〇所在地 大阪市旭区新森二丁目八一一五
〇構造様式 鉄筋コンクリート造二階建
延二二四、一五平方メートル

航空隊待機宿舎紹介

八尾空港を基地として消防ヘリコプター二機を運用しておりますが、緊急出動に備え目下航空隊待機宿舎が工事中で概要は次のとおりです。

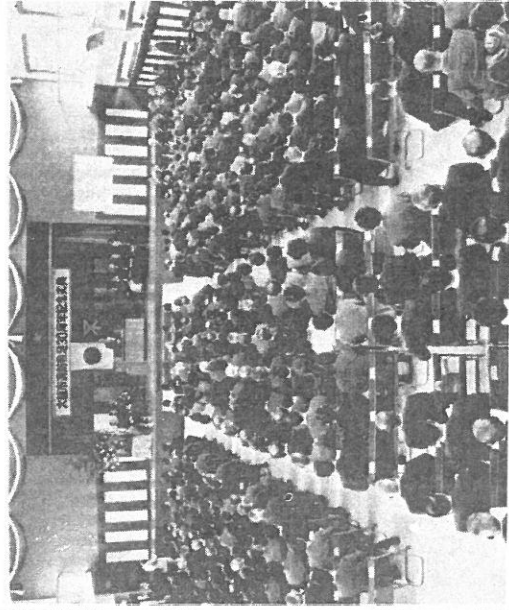
一、所在地 八尾市若林百九十二番地
二、構造様式 鉄筋コンクリート造三階建延面積五四三、五四四平方メートル
三、規模 集会所一室、3DK八室
四、竣工予定日 昭和五十四年三月二十日

防火の輪ひろげてよい町よい職場

(本年度大阪市防火標語)

大阪市消防局幹部

局長	消防司令	深澤修
総務部長	消防正監	大隅周一郎
総務課長	消防正監	酒匂憲之助
人事教養課長	消防監	馬越勝久男
消防学校長	消防監	杉村喜久男
総務部主幹	消防司令	小川徳一
総務部主幹	消防監	林勝美
予防部長	消防正監	中田勝彦
予防課長	消防正監	本田隆次
防犯課長	消防正監	竹田隆雄
危険物課長	消防正監	熊野昭一
機動査察隊長	消防正監	米谷重雄
警防部長	消防正監	荒木昭三
計画課長	消防監	國本篤弘
司令課長	消防監	高橋幹一
救急課長	消防監	谷口幸雄
機械課長	消防監	片山金司
警防部主幹	消防監	太田信之
警防部主幹	消防司令	今西俊之
警防部主幹	消防司令	龍本七郎
北消防署長	消防正監	松本久雄
都島消防署長	消防司令	大倉久成
福島消防署長	消防監	中須賀一和
此花消防署長	消防監	大西輝男
東消防署長	消防正監	山西朝博
西消防署長	消防監	東博人
港消防署長	消防司令	林田肇
大正消防署長	消防監	造田隆明
天王寺消防署長	消防監	梶野清一
南消防署長	消防正監	中尾清一
西淀川消防署長	消防監	榮高杉三郎
淀川消防署長	消防監	恒遠
東淀川消防署長	消防監	十河將博
生野消防署長	消防監	吉川幸一郎
旭消防署長	消防司令	山本大吉
城東消防署長	消防監	矢ヶ部俊高
鶴見消防署長	消防監	八幡定年
阿倍野消防署長	消防監	岡積勝雄
住之江消防署長	消防監	國貞拳吾
住吉消防署長	消防司令	倉田幸義
東住吉消防署長	消防監	井上雅美
平野消防署長	消防司令	吉田美次
西成消防署長	消防監	壁波清秀
水上消防署長	消防司令	辰巳義雄



大阪消防発足三十周年記念 消防フェスティバルに市民三万五千人が参加

昭和五十三年三月二十五日(土)午前十時から長居小学校講堂に於て記念式典が行われ、永年勤続防火協力会長、消防行政協力者、優良職員など八四二名、二十九団体が表彰されました。

ひき続き長居公園自由の広場で開催されました消防フェスティバルには三五、〇〇〇人を越す市民が参加し、消防に対する認識と防火思想の普及に大きな効果を挙げました。

写真説明

上 長居小学校に
おける記念式典
下 盛会場の消防
フェスティバル



年末に憶う

松下電器産業株式会社
取締役 小川 鍛

消防人の先輩の集りである清風会、年齢を重ねた多くの先輩達は、こよなくこの清風会を愛している。過去を思い、これからの人生を考え、後輩消防人の健康と活躍を、そして国民の尊い生命財産を守るという使命に対し、激励の祈を心に秘めつつ、ひとときをすごすのが常である。私も出席して、常にすがすがしさを覚えているのである。

人が歩けば、道が出る。道があるが故に迷うことな。多くの先輩達は、新しい道を求め、先人先輩の志を継いで、更に歴史と伝統を生み、人を導き育て、きたのである。

先輩並びに指導者は、常に多くの後輩部下に見つめられており、その中に、信

頼と権威を見出した後輩達は、深いよろこびと誇りを感得しているのである。ひるがえって今日の日本の現状をみると、政治、経済、行政、教育、等々の権威は失われ放棄されつつあり、日本国民が、目標を見失い焦躁と混乱にあげられていくというところは、誠に憂慮に堪えないところである。

我々のもつ精神文化は、素晴らしいものであり、その歴史と伝統は、深く広く豊かなものであるのに日本人自身、その尊さと誇りを忘れているのは嘆かわしい。ある国際シンポジウムで、記念講演をした外国人の女性代表者が、「なぜ日本人は、日本固有の素晴らしい文化があるのに、欧米

と同じことをしているのか、日本文化の伝統の中から新しいものを創造しないのか」と提言している。ものまねの上手な日本人は体験し、創造し、勤勉の心と勤労の努力をとかくきげ勝ちであり、安易に流れやすい性質をもっている。そこに今日の日本の混乱があるのではないかと真剣に考えねばならないときであると思

う。世の中を甘く考え、こまかして渡るくせがつけば、もうおしまいである。真剣になれないのが一番不幸な事ではないか。前向きの目標をもつことビジョンを持つことが必要であり、それが、高ければ高いだけ、広ければ広いだけ、深ければ深いだけ、人

生を生甲斐のあるものにし、充実した健康な人生を自らの手で創出出来るのである。私は本年古稀を迎えた。七十年の齢を思えば長い年月であり、刻みこまれた人生の年輪は、体験という宝を与えてくれた。先人先輩が残した伝統精神文化の道を引きついでこれからは、仕事に心こめて、守りつづけて、又後進の指導に努めたい。私に感謝して、その恩に報いる事が今後の人生に光明と生甲斐を生んでくれるものと思

っている。私の心中の一端を申し上げ、清風会員、みな様のますますのご健康とご活躍を、更に、ご家族お揃いでご多幸なご過年を祈念して御筆する。

重なる光榮に浴して

大塚 弥三郎

この春は、私も生存者として消防救護者を代表してお礼を言上するの光榮に浴し、又去る十月二十四日には赤坂御苑の秋の園遊会にお招きを蒙り、皇太子殿下より、大阪消防の困難性について、又幾の宮内庁より、私の勤続について天々身に余るお言葉を賜る等重なる光榮に只々驚愕感激を致して居る次第でございます。

ここに余余の一端を御報告券々近況を述べ、本年の御交誼にお礼を申し上げる次第でございます。

昭和五十三年晩秋

私が歩んだ三十六年の消防の道、そして第二の人生十年歳に私なりの幸せの毎日で願はくは、更に明日への希望等全く感謝の外はない。私は五十代に人生の基礎を築き、六十代に人生の花を咲かせ、七十代に職業として又人間として実りの多い一生を念願している。従って私の人生には定年はないその年代に対処して、自己の歩みを誤らないよう心がけている。その原動力は二にも二にも健康と温かい人とのふれ合いと思う。私は第二の人生のスタートに際し、十年を第一目標とし努力を続けた。幸に自分なりにその目標に到着し、企業人として尊い経験も重ねることができた。幸に私には九十七才の母が達者であり又私の郷土には男子日重千氏が居られる偶々去る十一月四日泉翁を訪ね大島靖大市長からの長寿杖を贈呈し長寿を祝し親しく長寿の秘訣とに翁愛用の郷土酒も戴いた。翁は百十三才の今日、毎日庭の草取り手入れ老人会への出席、晩酌数多い訪問者との対話(新婚

健康でゆこう 江口 武雄

秋たけなわである。高くすんだ空さわやかな空気、木々の紅葉美しく湛えた月などは、心身を躍動さすにはおかない。そして読書の秋、スポーツの秋など最も適した季節でもある。都市の生活環境は次第に心身の鍛錬、健康の増進に身が鍛えられ、心身は健康をむしはみはじめていると言ふ。現在化したビルでの長時間の仕事はストレスを増し発想まで画的にする。空調設備でも悪ければ悲劇的、運動不足は足腰を確実に弱める。屋上に出て広い空を眺めるだけでみるみるうちに血液の循環が促進されると言うから、いかにビル内の長時間の仕事が体に良くないかが

さんが翁の長寿にあやかるため訪問が多い)等全く羨しい限りで現在地元の名譽町民(伊仙町)として町民、郡民、県民から尊敬を受けて長寿の秘訣はよく働きよく構えが肝要とのこと、私もこれにあやかり今後の人生を有意に毎日を迎えたいと念願しやまない。

読者諸兄のご健康、ご多幸を祈ります。

大阪市長大島靖後援会長
大阪防災管理 社長

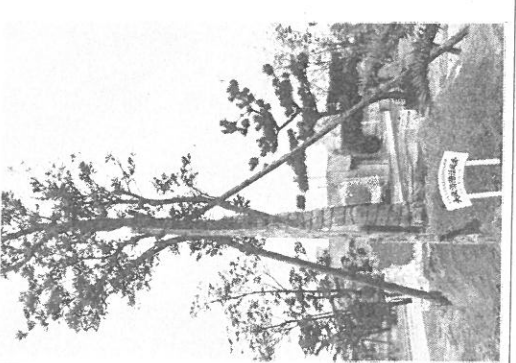
分る。これは人間ばかりではない。都会の夫は家に帰る帰る能力をなくしてきている。昔は四十キロぐらい離れていてもちゃんと帰って来たが今はだめらしい。これも道路が、アスファルトで固められ土の匂いがかみつかう犬が増えているとやみつく犬が増えていると。会への不満、変化の乏しい生活のなかでせめて精神世界の楽しみをと言うことかも知れないが薬に頼る心の旅路には危険が多いし問題の解決にはならない。確かに我々を取り巻く生活環境は快適なものばかりではない。いし心身をむしばむことも数多い。先日、ある会合で会長はこう語っていた。現実社会が苦しく、おもしろくないのはむしろ当然である。それをおもしろく、楽しくするの結局自分自身を

くなく、健康増進、精神の豊かさ、日常生活での創意工夫によつてもたらすことはできる。要はその強い一念と行動力があるかないかで、ある。さわやかな自然のリズムとともに健全な心身を、つくるために前職の活力を發揮し健康で愉快な日々を過ごすであらう。

以上。

三十周年記念植樹

清風会の協賛事業として昭和五十三年四月十八日、大阪消防学校校庭に、清風会役員の手によって「やまもも」の木を、記念植樹されました。現在写真のとおりすくすくと成長しています。



岡松運送株式会社

運輸省免許
一般貨物自動車運送業
迅速丁寧にお届けします

社長 岡松 武男

☆本社 福島区潮江六一〇の六
電話 (06) 四五二一五二九八
☆営業所 東淀川区豊里三番丁四四六
電話 (06) 三二九一四七五六

建物の総合管理

(昭和43年9月1日創立)

★定年退職後のあなたの……
★消防の経験を活かせる……
★安定した職場です。

大阪防災管理株式会社

社長 赤井 次郎 (元大阪消防局長)
大阪市西区本町1丁目6番2号
(地下鉄四ツ橋線 本町駅下車)
TEL 06 (531) 2714 (代)
自宅 06 (797) 1525
担当 荒山 貞夫
気軽に相談ください。

高級紳士服御詔 専門店
高級 既製服

ギヤメンズ

TEL (06) 352-3651
北区天満3丁目3-14

社団法人

大阪市防火管理協会

会長 青井 義臣
副会長 氏 平 幸 成

新 会 員 紹 介

氏 名	住 所	電話	職業(会社名)	退職時の 所属(年月)
大城菊信	〒557 大阪市西成区鶴見橋 2丁目9-1	(06) 568-4362		南 人 教 S50・12
前川フユコ	〒570 守口市藤田町4丁目121			鶴見 S50・12
大藤義道	〒573 枚方市茄子2-12-7	(0720) 54-0087	大阪市防火管理協会	西 S53・4
中尾 浩	〒639 奈良県大和郡市九条 ケ丘483-10	(07435) 2-1465		福島 S53・5
新島 実	〒546 大阪市東住吉区矢田矢 田部町中通1-1府任41-681			住吉 S53・4
中渡瀬宣男	〒547 大阪市平野区平野本町 5-3-9	(06) 703-5035	風 不 動 産 KK	東 S52・10
分部吉郎	〒558 大阪市住吉区長慶町中 1-20府警鶴ヶ丘住宅23	(0729) 692-7535		北 S53・4
内山 登	〒583 藤井寺市慈美坂1-7-17	(06) 55-1912	大阪市街地開発㈱	生 S53・6
猪熊幸雄	〒538 大阪市鶴見区緑1-7-8	(06) 939-7668		野 S53・8
西村 清	〒558 大阪市住吉区我孫子東 5-11市住92	(06) 698-4167		西 S52・11
川尻由一	〒543 大阪市天王寺区小宮町 15-1	(06) 772-2407		都 S53・3
中村精一郎	〒690 京都市下京区奥門通木 津屋敷上ル御室町403	(075) 361-4787	風 不 動 産 KK	大正 S52・9
下家 実	〒551 大阪市大正区三軒家西 1-9-9	(06) 552-4429		生 S53・9
山田正行	〒544 大阪市生野区生野西 2-1-16	(0727) 717-6216		福島 S52・8
村尾清一	〒562 箕面市箕面4-8-68	(0727) 22-7053		西 S53・9
小沢徳三	〒584 富田林市大字須賀179 98	(07212) 8-4108		東 S53・2
美濃岸子	〒532 大阪市東淀川区豊里管 原町甲203	(06) 327-2229		阿倍野 S53・7
川村富太郎	〒584 富田林市平野2丁目 7-31	(0720) 4-0348		淀川 S52・10
上原 勇	〒574 大東市北楠ノ里町 25の15	(0745) 77-2872	農 業	東 S53・11
菊田義博	〒635 奈良県北葛城郡松原町 南郷950	(0745) 55-3284	農 業	平野 S52・10
梅原勝次	〒552 大阪市港区磯路2丁目 5-2	(06) 572-1969	大阪社会医療センター管理課	東 S53・7
砂子末信	〒636 奈良県北葛城郡河合町 星和台2-16-9	(0745) 73-6336	大阪地下街㈱	此花 S53・2
山田庸三	〒570 守口市八雲北町2-89	(06) 993-1737		旭 S53・7
大枝義治	〒564 吹田市内本町3-18-5	(06) 383-5765		東淀川 S53・4
中川恒男	〒632 天理市成福寺町3	(07436) 6-0395		東 S53・11
林 藤太郎	〒580 松原市立部2丁目583	(0723) 34-3709		平野 S52・10
岡本正義	〒564 吹田市川園町14-1	(06) 381-8732	木村共同住宅・木村貸倉庫	東淀川 S53・7
木村 清	〒544 大東市生野区箕中 2-25-18	(06) 757-0753		生 S53・12
山本新伍	〒557 大阪市西成区天下茶屋 3丁目18-8	(06) 653-6082	大阪社会医療センター管理課	西成 S52・9
竹谷正次	〒558 大阪市住吉区常楽山中 1丁目125-1	(06) 673-8578	大阪地下街㈱	此花 S52・10
岩中貞雄	〒633 桜井市川合232-2	(07444) 2-9840		此花 S53・9
青木義一	〒591 堺市藏前町1616の1	(0722) 51-3940		阿倍野 S52・12
辻野正美	〒536 大阪市東淀川区野江 3丁目2-9	(06) 932-5388	大阪防災管理KK	鶴見 S52・10
岡本貴十郎	〒636 奈良県磯城郡田原本町 03 阪128-6	(07443) 3-3216	ニュージャパンプ観光KK	北 S52・11
萬 章	〒545 大阪市阿倍野区阪南町 1-54-21	(06) 621-4326	大阪市防火管理協会	天王寺 S52・4
井上千代治	〒593 堺市和131	(0722) 97-3160	御所市議会議員	西成 S53・6
杉本久男	〒639 奈良県御所市寺内町750 -22	(07456) 2-3059		鶴見 S52・12
越後孝祐	〒572 寝屋川市成田東町26-7	(0720) 31-1957		都 S53・10
肥後雲亮	〒534 大阪市都島区毛馬町 5-9-11	(06) 923-5217	古 美 術 商(自営)	旭 S53・9
鈴木 隆	〒581 八尾市志紀町西1-3	(0729) 49-2305	セントラル警備保障㈱	阿倍野 S53・10
上田勇治郎	〒592 高石市篠園2丁目19-9	(0722) 61-4439	大 阪 支 社	住吉 S52・4
笠松 一喜	〒580 松原市河合2丁目3-16	(0723) 31-7301	風 不 動 産 KK	南 S53・8
森 新太郎	〒544 大阪市生野区勝山北 1-6-20	(06) 731-0554		東淀川 S52・12

自 惚 れ の 記 大 賀 正 祐

病気に罹れば家族に迷惑をかけるが、頭が呆けたら家族だけでなく、他人にまで迷惑をかける。一番手古慣るのは身体が達者で、頭が呆けた人である。家人が油断している間に飛んでもない所へ出遊んで回る。同じしけるならば寝たきり病人の方がよい。身体は健康法を説く人は多いが、頭の呆けない予防法を講議する人は少い。そこでこの正祐の呆けないうちに鳥獣がましきも筆、清風の紙面を汚させて置くことにしました。

題して正祐自惚れの記、正祐昭和四年六月三十日その頃全国六大都市のみに設置されていた、官設消防大阪府消防手を拝命しました。父の祥月命日でしたので、消防を退職する日は母の命日と決ままして、昭和三十一年七月二十三日、大阪府消防局長兼消防署長辭職願いを提出しました。突然のこととして市長殿は大変驚かれました。七月二十三日付とは如何なる理由か」との質問「ハイ私は昭和四年六月三十日に大阪府消防手を拝命いたしました。丁度亡父の祥月命日でしたので、消防退職願いは亡母の祥月命日にと考慮しておりました。今日七月二十三日は母の祥月命日でございます」と申しましたら、市長殿は心から感激されて「就職の日が父の命日だから退職は母の命日にする。このような考えで辞職する者は全国幾千のサラリーマンの中で君一人だろう。今やめられては困るがそれ程の決心をしているのであれば、この辞表市長が預かることにする。然し発令は八月一日にするよ。これは僅かだが市長としての饒別だよ」官庁というところは実にありがたい。八月分だけ一日のことで、月俸諸手当に署

長交際費まで、そっくり頂戴いたしました。三、終戦直後のことでした。吉田茂内閣総理大臣から、高等官二級に叙すとの辞令が送り届けられました。三、自治体消防になつてから瀧野国家消防本部長殿より章記とともに消防功労章、知事殿より副賞として、粗末な正祐の家には勿体ないような記念品を拝受いたしました。この栄譽は大府下ではこの正祐が最初でありましたらしいです。四、布施市議会では、正祐に本会議で議案を提出されました。全員賛成、議長指名で五名の市会議員の方々が感謝状の草案委員に選出されて会議は暫時休憩、草案ができたので議案再会、感謝状の文案を草案委員が朗々と読み上げられます。拍手これで可決確定。ついで議長殿が正祐を議長室に招き「市会の決議で感謝状贈呈は全く布施市では前例のないこと、全国でも大賀さんだけでしょ」と云つて下さいました。五、昭和四十三年春の生存者叙勲の際、不肖正祐勲五等瑞宝章叙勲のお沙汰を拝し、女房同伴で皇居南の間に伺中央でしたが、幸にも列の陛下の直前に立ち御賜の肝に光栄に浴しました。このとき、陛下は「これから世の中のために役立って下さい」と、誠に以て勿体ない言葉が賜りました。この言葉が正祐ら夫婦の肝に深く銘じました。東京から奈良に向つての帰途列車の中で正祐夫婦で相談し合いました。学力、財力、体力、心もいらずに如何にして、陛下のお言葉に添ふことができるか、この時ふと正祐の胸に浮かびましたのは、いつぞやの新聞に「医科大では研究用の遺体が不足

のため十分に医学の研究ができず悩んでいる」という記事の思い出し、思わず小膝をボンと叩きこれなれば、今の正祐らもお役に立ち得る。何れ人間は寿命が尽きれば火葬場行きた。医学の貴重な研究資料になる遺体をむさむさと焼いて灰にする。反対していましたが息子たちも正祐の熱意に動かされて同意してくれました。会費で皇立奈良医科大学へ夫婦揃つて篤志献体を申し込みました。二年後に正祐が発起人の一人として篤志献体者に呼びかけ、皇立奈良医大白菊会を結成し正祐初代理事長に選任された儘今日に至つています。篤志献体者の遺体が研究に役立ち、これにて日本の医学が進歩向上し、良い医師が育成され、吾れら子孫の健康管理に聊かとも貢献すると思は「この後も世の中のために役立つよ」と、陛下の賜つたあの言葉の万分の一でも添いつぞやの新聞に「医科大では研究用の遺体が不足

のため十分に医学の研究ができず悩んでいる」という記事の思い出し、思わず小膝をボンと叩きこれなれば、今の正祐らもお役に立ち得る。何れ人間は寿命が尽きれば火葬場行きた。医学の貴重な研究資料になる遺体をむさむさと焼いて灰にする。反対していましたが息子たちも正祐の熱意に動かされて同意してくれました。会費で皇立奈良医科大学へ夫婦揃つて篤志献体を申し込みました。二年後に正祐が発起人の一人として篤志献体者に呼びかけ、皇立奈良医大白菊会を結成し正祐初代理事長に選任された儘今日に至つています。篤志献体者の遺体が研究に役立ち、これにて日本の医学が進歩向上し、良い医師が育成され、吾れら子孫の健康管理に聊かとも貢献すると思は「この後も世の中のために役立つよ」と、陛下の賜つたあの言葉の万分の一でも添いつぞやの新聞に「医科大では研究用の遺体が不足

原 稿 募 集

随想、思い出、俳句、短歌、川柳その他ご意見など、何でも結構です。から会員の皆様あるつて、どしどしご投稿ください。次回会報は、来年十二月初旬頃発行の予定でありますので、出来得る限り十月末日までにご投稿ください。ますようお願いいたします。

俳句、短歌、川柳 江口武雄

俳 句

七五三双子の一人盗みなし
太陽がいくつも欲しやフトンナす
月光を大森林が吸いこめり

短 歌

転び泣く子のたつまでを
若き母親 頼もしと
ほ おえむ
片手あげ 横断歩道を
渡る行く
見ていつ

川 柳

台風に教えてやりたい通る道
敬老会炭坑節で幕となり
晩酌へ妻もエアロン脱いでくれ

★ ★ ★ ★
大阪市消防局の所在地が
つきのとおり変更されました。
西区新町一丁目二六―三

かな し み

火の方々が逝きされまし
たのでお知らせします。
ご遺族には本会から哀悼
の意を表しました。
平野義三氏
昭和52年6月1日死亡
登 昭 秀一氏
昭和53年1月2日死亡
八木 茂氏
昭和53年1月13日死亡
宮定竹三郎氏
昭和53年3月22日死亡
広沢安太郎氏
昭和53年3月23日死亡
隅 田 武美氏
昭和53年3月27日死亡
岡 昭 勇氏
昭和53年4月24日死亡
山本徳三郎氏
昭和53年7月31日死亡
古畑三郎氏
昭和53年8月7日死亡
田 村 敏夫氏
昭和53年9月3日死亡
間 徒六位殿五等瑞宝章に叙す
昭和53年9月8日死亡
岩 浅友一氏
昭和53年11月11日死亡

財団法人

大阪府危険物安全協会

大阪市危険物安全協会

住宅建築無料相談

あらゆる建築のことなら...

岡 建 設

会員のみなさん なんでもお気軽に
ご相談下さい

岡建設株式会社

事務所 大阪市東成区中本四丁目二二六
電話 〇六(九七二)二二五五
出張所 大阪市淀川区東三国二丁目九一五
電話 〇六(三九二)二一六四

高級紳士服御詔

高級既製服は当店へ

飯 野 洋 服 店

清風会会員 飯野 円 一

大阪市旭区今市二丁目七番四号

電話 〇六(九五三)一七六三

中 村 印 刷

中村正雄

大阪市福島区福島八一四―一九

電話 〇六(四五八)二五二二